

令和5年第2回加西市教育委員会会議録

- 1 開会日時 令和5年2月22日(水) 14時00分
- 2 閉会日時 同日 16時12分
- 3 開催場所 市役所 5F 大会議室
- 4 出席者 教 育 長 民 輪 惠
委 員 沼 澤 郁 美
委 員 楠 田 初 美
委 員 中 川 和 之
委 員 深 田 英 世

5 上記出席者及び傍聴人を除き、会議に出席した者の氏名

教育部長	千 石 剛
教育総務課長兼給食係長	伊 藤 勝
学校教育課長	安 富 重 則
こども未来課長	丸 山 常 基
教育委員会課長(未来型児童館担当)	
	井 上 英 文
生涯学習課長兼市史文化財係長	北 島 悦 乃
総合教育センター所長	工 藤 憲 人
図書館長	伊 藤 陽 子
教育総務課	上 田 南

地方教育行政組織及び運営に関する法律第14条第3項に定める定足数に達していることを確認し、議事に移りました。

6 付議事項

議案第3号 令和5年度加西市立公立学校の管理職人事内申について

議案第4号 加西市立図書館運営規則の一部を改正する規則の制定について

7 議題となった動議を提出した者の氏名

教育長より、本日の議案第3号は人事案件であるため、加西市教育委員会会議規則第15条第1項のただし書の規定に基づき非公開とすることを諮り、出席者(5名)の

全会一致で承認を得ました。

会議の進行上、先に議案第4号から審議を行い、議案第3号は休憩を挟んだ後に非公開で審議しました。

8 質問及び討議の内容

議案第4号 加西市立図書館運営規則の一部を改正する規則の制定について

(図書館長の説明) まず、訂正をお願いします。訂正箇所は、第14条及び第15条の「本館で発行した」という文言を削除するものです。これは先日教育委員さんより、この「本館で発行した」という文言は他の図書館運営規則に見受けられないとご指摘いただいたからです。

「加西市立図書館運営規則の一部を改正する規則」を別紙のとおり制定したいので、委員会の議決を求めます。このたびの改正は、令和5年3月よりスマート図書館システムを導入することに伴い、電子書籍等貸出しに関する事項を定める必要があるため行うものです。また、昨年3月からマイナンバーカードを図書館カードとして使用できるようになったことについても定めています。

主な改正点は以下のとおりです。第10条では、図書館カードの交付の見出しを設け、マイナンバーカードを図書館カードとして使用できることを定めています。第15条では、電子書籍貸出しの手続を定めています。第17条では、電子書籍の貸出冊数、貸出期間を定めています。併せて、章名と節名を削除しました。章や節は条文が多い場合に、読みやすくするため設けられます。当該規則はそれほど条文が多いわけではないので、章名と節名を削除することですっきりとした見やすい条文になりました。

教育委員からの意見と図書館長の回答

- ・今回の改正について何も意見はありません。スマート図書館導入への対応やマイナンバーカードでの図書館利用による改正というのは、図書館長の説明どおりだと思います。ただ、私が細かいところで引っかかってしまったのは、第14条の「本館で発行した」という文言です。「で」という助詞はおかしいので、「が」にするべきかと考えながらいろいろな市町の管理運営規則を見ていると、どこで発行したとは書かずに、ただ「図書館カード」という文言を使っているところが多くありました。それで、図書館長に提案したところ、「分かりました」と言ってくださった。第14条についてはこれですっきりとした条文になったと私は思っています。
- ・まず、章と節を全てなくして、条のみにした理由を簡単にお話いただけますか。

(回答) もとものの規則には章名や節名が細かく入っていました。しかし、総務課と相談したところ、これぐらいのボリュームの規則は章や節で細かく区切ると、逆に見にくくなるのではないかということでした。それで、このたびの改正に当たり、章や節を取ってすっきりとさせようということになりました。

- ・市例規集でも短いものはほとんど章や節がないので、今回それに合わせているのかなと思います。もう1点ですが、「もしくは」や「うけなければならない」という文言は平仮名から漢字に直されています。理由がありましたら教えていただけますか。

(回答) 以前の規則は昭和44年という古くに制定されたもので、当時は平仮名表記でしたが、現在は漢字表記になっている文言もあります。こちらのほうも総務課に相談して、今回の改正に合わせてそういった文言も修正しています。

- ・そうすると、今回の資料の中で引用されてはいないですが、本来の運営規則第30条の「館長の承認をうけなければならない」という文言についても、平仮名から漢字に統一して直されたほうがいいのかと思いますが。

(教育長の回答) 私も見過ぎてしまい申し訳ありません。ただ逆に、「もしくは」については、むしろ以前は漢字表記の「若しくは」が多く使われていましたが、今は漢字で書くことはなかなかなくて、「もしくは」と平仮名が使われるほうが多いと思います。さらに、例えば以前は「子供」とよく書いていましたが、今はもうみんな平仮名で「子ども」と書くというように、漢字表記から平仮名表記にするという方向になってきています。それで、「もしくは」をわざわざ改訂して漢字にする必要はあるのかなと思います。

- ・「もしくは」は、まだ割と漢字の「若しくは」を使うことがあるように思いますが、「うけなければ」はどうでしょうか。漢字のほうが全体的な文章やほかの規則から見てマッチしているように感じます。ただ、今平仮名になっているほかの文言についてはどちらを優先するのかですね。これだけは漢字表記に変えたとしても、例えば第5条の「ていねい」は平仮名表記です。もし漢字表記に統一するなら「丁寧」に変えるのはどうかと思って見ていました。そこは現状に合わせてご検討いただければと思います。

(回答) 分かりました。総務課とも相談して、使うのにふさわしいのは漢字か平仮名かというあたりを検討させていただきたいと思います。

(教育長の回答) 実はこの教育委員会の議事録も、もともとは「である」調だったんです。でも、私にはどうも取っつきにくくて、市民の方が読まれるとき、そんな「何々である」なんて偉そうに言わなくてもいいんじゃないかとすごく感じまして、2、3回前ぐらいから「である」調を「ですます」調に変えてホームページに上げ

でもらっています。やはり市民の皆さんが見やすい、読みやすい、親しみやすいものにできたらと思いますので、その辺はもう一度検討してみてください。

・多分、庁内にも法制に関する部署があると思いますが。

(回答) 一般には平仮名書きすることが多い文言でも、恐らく規則や条例の条文で使われる場合はこの文字で書かれるというふうに決まっているのではないかと思います。念のため再確認させていただきます。

9 議決事項

議案第4号 加西市立図書館運営規則の一部を改正する規則の制定について

原案どおり可決

10 報告事項

教育長

1月25日の前回の定例委員会以降についてご報告します。

1月26日に定期監査が行われました。監査委員からのご指摘についてきちんとご説明しまして、最終的に監査委員の方には全てお認めいただいたと思っています。

1月27日には代表区長会が行われ、今年度の代表区長さんがおそろいになりました。私の印象では、去年より今年のほうが随分と活発に意見交換をされていると思いました。年度ごとに少し違いがあるのかもしれませんが、皆さんがいろいろな意見を出され、活発に意見交換されていました。

1月29日、環境講演会が市民会館文化ホールで行われました。環境に関して加西市として脱二酸化炭素の取組も環境省から認めていただいていますし、大変いいことだと思いました。

2月1日には中川教育委員さんの任命式が行われました。今後とも加西市の教育行政にお力添えいただきますよう、どうぞよろしく願いいたします。

2月2日には定例校長会が行われました。その夕方にはさわやか市民賞の授賞式が行われ、加西特別支援学校の富永雄大さんが2度目の受賞をされました。全国の特別支援学校の生徒を対象とし「みらいをえがこう」というテーマで開かれた第5回オリジナル T シャツ更新「オンリーワンを描こう!」というコンテストで、富永君の作品「みらいの海の中」が優勝したので、さわやか市民賞が授与されました。この作品は海の中でいっぱいお魚が泳いでいる前に、花が咲いていまして、大変明るく未来的ないい絵です。加西市の児童生徒が賞を受けまして、うれしかったです。

2月3日には、北播磨教育長情報交換・懇親会が小野で行われ、皆さんと忌憚のな

い意見を交わし合いました。今まで3年近くそういった集まりが全く持てませんでしたから、会議で顔を合わせるものの親しくお声がけすることもできず、どういう方なのかもいまいち分かりませんでした。この会は多分10年目ぐらいになれる西脇市教育長のお声がけで実現しました。いい会だったと思います。

2月4日土曜日には、第34回伊東電機杯親善少年野球大会の開会式が行われました。大変寒い中、朝早くから伊東電機のスタッフの方々がいろいろと準備してくださっていました。さらに、子どもたちのためにこうした大会を34年も開いてこられたことには、本当に頭の下がる思いです。また、来賓には伊東電機イノベーションセンター内で栽培されているイチゴとレタスの試食があり、私も少し頂きました。それは去年、加西 STEAM で富合小の子どもたちと一緒に邪魔させてもらった施設でした。子どもたちは本当に素直で、そのときの感想には、「すごいわ。水が土、LED が太陽。伊東電機は新しいことに挑戦してすごい」、「僕はアルバイトしたいです」と言う子もいて、これはとてもいいキャリア教育になっていると思いました。イチゴもレタスも大変味が濃くておいしかったです。

また同日、令和5年加西市区長会総会が市民会館文化ホールで行われました。寒い中、皆さんいらしてくださりよかったですのですが、いかんせんどうしても男性ばかりで、女性は司会者と私ぐらいなもので、ほとんどいらっしゃいませんでした。こうした戸主制度が残っているところに女性が出てくるのは難しいのか、と思いながら、それでもやはり新しいシステムか何かをつくって、女性もどんどん市政に声を上げられるような方向にしていければと思います。皆さん努力はしているのですが、なかなかそうならないという印象を受けました。

2月5日には、市民会館で公民館・かしの木学園合同特別学習会が行われました。幾つになっても社会参加するという向上心は本当に貴重なものです。実はコロナ禍でこうした総会はなかなか開けませんでしたので、集まった皆さんに今までお伝えしようにもお伝えしよくなかった加西市教育委員会としての取組、また子どもたちがどういうふうに変ってきているかということも含めてご報告をさせていただきました。皆さんが興味深く聞いてくださっている手ごたえを感じ、これからも頑張りたいと思いました。

その後、アスティアかさいで行われた「いただきます2」という映画の上映会に参加しました。これは3月25日に上映される「夢みる小学校」と同じ監督の映画です。

「夢みる小学校」は学校の話ですが、「いただきます2」では、日本がおみそやおしょうゆなど発酵の楽園であり、そうした発酵菌の力でオーガニック栽培が可能になっていることを取り上げたドキュメンタリーです。例えば、私が前々からとても注目してきた「奇跡のりんご」の木村さんも登場されます。木村さんは青森で10年間ほとんど無収入の中、無農薬、無化学肥料でりんご栽培を実現した方です。結局、そういった発酵菌があるからこそ田んぼはミミズやカエルがいっぱいいる豊かな土になり、それ

が日本の食を成り立たせてきたということ、美しい映像のドキュメンタリーにしていて、この監督さんは尊敬できる方だと思いました。3月25日に同監督の「夢みる小学校」の上映会が、実行委員会、加西市、加西市教育委員会の共催で行われます。ぜひご覧いただきたいと思います。

上映会の後、西村いつきさんの「コウノトリが教えてくれたもの」という講演会も行われましたが、私は予定があり聞くことができませんでした。資料は頂いていますので、ぜひ読ませていただきたいと思っています。

2月6日には加古川にある播磨東教育事務所で教育長ヒアリングが行われました。人事の季節ということで、県教育委員会と加西市教育委員会の人事の調整が何度も行われており、加古川にも何回も行かせていただいているのですが、その一つでした。

2月9日には教育委員会表彰を行いました。前述のさわやか市民賞というのは県内などでトップになった人を表彰するのですが、トップにならなくても大変素晴らしい成績を収めている子どもたちはたくさんいます。それで、校長先生などから推薦していただき、教育委員会表彰を行いました。

このとき表彰されたのは賀茂小学校の横山小梅さんというかわいらしい子でした。彼女はSDGsの3番目の「すべての人に健康と福祉を」という目標を切り口に、盲導犬ロボットを製作し、小学生プログラミング兵庫県大会にて大変優秀な成績を収めました。賀茂小学校というのは、STEAM教育を始めようと呼びかけたとき、父兄のご縁もあり、KOOVなどを使って最初にその教育に挑戦された学校です。小梅さんは、実は希望者の3割しか盲導犬を手に入れることができない状況であると知って、それなら盲導犬ロボットを作ったらいいのではないかと考えました。その発想自体が大変人に優しく、挑戦的ですが素晴らしいものだと思います。盲導犬ロボットを作るには、いろいろなセンサーをつける必要があり大変だったと思います。彼女は「夏休みのほとんどをロボットの製作にかけました」と言っていました。STEAMが芽を育て、いい子どもたちが育っており、大変うれしく思いました。

2月10日には、家庭倫理の会が開かれた書道展を見せていただきました。

2月13日には、第一生命労組姫路支部から30冊の絵本を寄贈していただき、その寄贈式を図書館で行いました。そういう善意の寄贈があちこちから頂けるということは、市としても、教育委員会としても大変ありがたいことだと思います。

同日、再びさわやか市民賞を3人の子どもたちが受賞しました。私は子どもが受賞しないときは出席しないのですが、最近子どもたちがほんとうにいっぱい賞を取ってくれて、何回も参加させていただいています。まず、1人目は北条小学校1年生山本珠玲さんで、交通安全ポスターで県知事賞を受賞されたということで、さわやか市民賞を授与されました。作品は大変シンプルに「てをあげて わたろう」という一目瞭然で分かるもので、小学1年生が大変力強く描いていましたので、「なるほど、これは知事賞をもらうな」と私は思いました。

2人目は北条小学校4年生山内絢斗君で、「宇宙の日」作文絵画コンテストで JAXA から小学生部門でグランプリを受賞しています。JAXA というのは私も行ったことがあるのですが、要するに極秘情報がたくさん詰まっていますし、宇宙飛行士という人間国宝並みの方がいらっしゃる場所なので、大変警備が厳しいのです。そういうところへ行って表彰されたということで一生の思い出になると思えました。この作品はアジア・太平洋地域宇宙機関会議でも紹介されるそうで、日本を飛び越えて紹介されるのはすばらしいと思えました。また機会がありましたら、作品を検索して見てあげてください。

3人目は富田小学校2年生の木下晴迦さんで、彼女は兵庫県主催「歯と口川柳コンテスト」で県知事賞をいただきました。その川柳は「歯がぬけて じいじのきもちわかったよ」という本当にかわいらしくて、もう思わず頭をなでてあげたくなるような作品です。加西市の子どもたちはすばらしいですね。

2月14日には宇仁小学校6年生から「よりよい加西市を目指して」という提案をしたいという申し出があり、最初に子どもたちは教育長室に来ると言っていたのですが、STEAMラボができましたので、それを使って子どもたちと会議を行いました。こちらは「何を言われるのかな」と思って緊張していました。皆さんが STEAM ラボをご覧いただいたかどうか分かりませんが、STEAMラボでは会議が始まる前の段階からカメラには映っており、それを知らない子どもたちがうれしくてダンスをしたり、ある子は寝っ転がってみたりして、私はその様子を見て「これはすばらしいな。そういう子どもたちの様子も含めて、これこそ本当にインクルーシブなんだな」と思いました。会議が始まると、子どもたちはびしっとしていました。そのように宇仁小学校の STEAM ラボと教育長室を結んで会議をしました。

これは少し個人的なことですが、私にとって宇仁小学校は母校だという親近感と、多分子どもたちにとっては、先輩で学校のことをよく知っている教育長だということで、双方に強い親近感があったのだと思います。もちろん私は母校でなくてもきちんとやるのですが、そういう親近感とわくわく感も加わった大変楽しく中身の濃い会議になりました。なかなか辛らつな提案もありましたが、きちんと聞いた上でできることはやっていきたいと思えます。ただ、「宇仁校区にもっとお店を造ってください」と提案されたときには、「それはもう教育長一人だけではできないから、地域のまちづくり協議会で話を出すようお父さんらに言ってね」と言いました。なかなか面白くて楽しい会議でした。

あと、実は2月16日は当初予定していました子ども・子育て会議の日程を変更して、きのくに子どもの村学園に視察に伺う予定でした。教育委員さんたちにも予定をはぐらかせてしまい申し訳なかったのですが、先方からコロナの集団発生があり、視察はご遠慮いただきたいという連絡がありました。教育委員さんからも大変残念だということをご意見をいただいていますので、何とか3月か4月に行けるよう総合教育センター所

長が調整を頑張っているところです。

本日2月22日の午前中には子ども・子育て会議が行われました。この会議の出席者は年代も、いらっしゃる世界も様々ですので、皆さんそれぞれからいろいろな議論が大変活発にされる会議です。担当課長にとってはなかなか大変だと思いますが、私はすばらしい会議だと思っています。私は直接出してくださる皆さんのいろいろな声を謙虚に伺って、なるべく実現するようと思っています。市政というのは管理することも大事ですが、それだけではなく、希望をつくるということこそが、市政の最大の役目であるといつも私は思っています。今回も大変活発な意見が出ており、よい会議でした。

学校教育課長

学校教育課からは、小・中・特別支援学校における感染状況と学校教育活動の現状、今後の見通しについてご報告申し上げます。

まず、感染状況について報告します。新型コロナウイルス感染症については、児童生徒の感染者数は12月に201名でピークを越し、1月161名、2月は20日現在52名と着実に減っています。学級閉鎖については、1月は1学級、2月は4学級と1学校で臨時休業を行いました。次に、インフルエンザについては、市内の爆発的な感染拡大の状況は無いと見ていたのですが、昨日から本日にかけ九会小学校1年の1クラスで学級閉鎖をしており、九会校区ではこども園を含めて広がっている状況があります。インフルエンザによる学級閉鎖は、1月に5学級、2月に1学級であり、これは前述の九会小学校になります。

こうした状況や国の方針を受け加西市教育委員会としては、卒業式において児童生徒、教職員は、式全体を通してマスクを着用せず出席することを基本にすると通達しています。もちろん最終的には、状況をぎりぎりまで鑑みて、学校の規模や感染状況に応じて校長の判断により対応を考えていただくことにしています。教育委員の皆様には教育委員会を代表して告辞をお願いしています。その際、来賓席ではマスクを着用していただき、告辞を壇上で読み上げるときにはマスクを外していただければと思います。この辺りの細かいところはまた学校のほうでよろしく願います。

感染症に振り回されない学校教育活動がいよいよ再開されます。コロナ禍は学校で営まれる教育活動の目的を吟味する大変良い機会になったと考えています。今各校ではちょうど来年度の学習活動や学校行事の年間計画を立てているところです。これまでも加西市の教育が大切にしてきたことですが、子どもたちの育ちや学びにおける基礎や基本を重視しながら、新たな視点で教育の推進と充実を図ってまいりたいと考えています。

こども未来課長

小規模保育所・認定こども園における保育教育活動についてご報告します。

まず、新型コロナとインフルエンザの感染状況について報告します。新型コロナについては、1月には乳幼児累計123名、教員23名、合計146名の感染がありました。愛の光こども園、北条東すみれこども園、愛の光ナーサリー小規模園でクラス閉鎖がされました。2月中間集計では、乳幼児は25名、教職員4名、合計29名の感染ということで、現状では今後かなり落ち着いた数字になっていくと思われます。それとは別にインフルエンザの集団発生があり、先週と今週に加西こども園3、4、5歳でクラス閉鎖をしているところがあります。

次に、卒園式について報告します。学校の卒業式と同様に、こども園についても原則マスク着用はなしという方向で開催します。保護者については保護者判断とします。ただし、歌を歌うときはマスク着用にします。通常、4歳の在園児が卒園式に参加するのですが、規模が小さい賀茂幼児園のみ在園児参加としますが、それ以外は在園児の参加はなしで行います。というのは、保護者を含めると乳幼児なども含めかなりの大人数になってしまうこと、また保護者の参加者も1、2名と入場制限をしていることから、今回は在園児を入れずに進める予定にしています。

次に、令和5年度の入所予定について報告します。12月速報値は1,176名ということで、第一次募集がこの4月から入園予定としていましたが、今月の第二次締切りをし、1,201名を受け入れる予定となりました。また、来月には第三次締切りがありますので、昨年で1,260名程度ですが、昨年並みぐらいにはなるだろうと思います。ただし、3から5歳児の申込みよりもゼロから2歳児の申込みがかなり伸びていますので、待つていただく方も出てしまうかもしれないと予測しています。この4月には万和学舎北条保育園と中野保育園の2園を開園予定として受入れ体制を整えているところですが、申込みは予想を超えるほどかなり多いという状況です。

その改善策として保育教諭確保が喫緊の課題です。そのためには昨日新聞にも出ていましたが、来年に向けた子育て支援のメニューを出しています。まず、今のところ需要はないのですが、現在も実施している社宅補助をメニューとして続けていきます。そして、新たな採用者に対して定着一時金として2万円を支給していますが、それに1年間にかけて1万円を上乗せします。また、新たにこの1月から採用時に5万円の手当を上乗せしています。

さらに、保育士の確保ができない部分については、免許取得を目指している方を保育補助として、また保育免許取得の予定はないけれども、配膳や園内の消毒などの業務を担う支援員などを採用し、保育教諭の負担軽減を図るというメニューも来年度に増やしていく予定です。また、今まで議論があったところですが、新聞ではなくインターネットで採用情報を見て、人材紹介会社へ登録される保育教諭の方も増えていきますので、その手数料の3分の1程度を補助することで、緊急の保育士確保対策を進めていきたいと考えています。

教育委員からの意見とこども未来課長の回答

- ・保育士の確保の件では、これだけ補助金や手当などを上乘せされているところはありがたいと思います。しかし、先月には職場環境について、例えば先生にタブレットを持ってもらうなど、もろもろの意見を私から言わせてもらったと思います。職場環境について、そういった改善策を実際に考えていらっしゃるのですか。

(回答) 一番の改善策は保育教諭の確保であり、それができれば業務分担ができます。そこができていないということが一番の問題です。IT化は並行して進める予定ですが、計画どおりにいって大体5か年計画でいくものなので、今すぐ進められるというよりは、順次進めていく予定です。

- ・私が一番気になるのは、保育士の確保をしたとしても、離職率が高ければ辞められてしまうということです。アンケートを見ても、ほとんど職場環境のことが書いてあったので、そこをしっかりとやらないといけないのではないかと私は思います。

(回答) 虐待なり暴力事件なり保育のいろいろな問題があることは存じていますし、そうしたことがやはり職場環境から来ているかなと思うところはあります。それで、人材確保と処遇改善の両方を進めていかなければいけません。また、加配の先生を置くことは、結局その園の経営を圧迫することになります。それで、そうならないように加配の先生の手当として、補助の上限を20万上げて200万円に上げるといった周辺支援もしながら、園の経営改善も含め私立園に対して進めているところです。

- ・もう一つ私から提案させてください。昨夜考えていたことですが、今子どものおむつを家に持って帰ってもらっているそうですね。衛生面や保護者と保育士さんの負担から考えれば、おむつをわざわざ持ち帰らせるのはどうなのかと思います。また、保育士の件では、お金の手当は物すごくありがたいことですが、やはり少しでも早く職場環境も整えてあげてほしいです。

(回答) おむつの処分については改善する予定です。昨年春にいろいろな記事が出てから、順次進めていこうとしていたところです。保育料無償化や主食の提供の施策など順番に小出しになってしまったため、後れてしまい申し訳なく思っています。今回の3月議会には間に合いませんでしたが、最短で6月議会に出して進める予定です。なお、保育教諭としては、手はかかったとしても、おむつを保護者に見てほしいという意見もあります。ただ現実、見られる保護者はそんなにいませんので、持ち帰りをなくす方向でサービスを提供するようと思っています。

- ・アンケートを見て、本当に私は職場環境についての意見にしか目がいかなかったの

で、学校の先生もそうですが、少しでも早く保育士さんの負担を軽減するように、職場環境のほうにも力を入れていただきたいと思います。そして、せっかく保育士さんたちから意見をいただいたので、アンケートに沿って今こういうふうに取り組んでいるという状況について、もしよければ保育士さんたちに言ってあげたほうがいいと思います。というのも、教育委員会はこういうふうに取り組んでいるんだと報告しなければ、結局、教育委員会はアンケートだけで終わってしまったのかと言われてしまうかもしれません。でも、報告していれば、すぐに改善されなかったとしても、きちんと自分たちの意見を見てくれているんだなと感じて、保育士さんたちのモチベーションが上がるのではないかと私は思うのです。だから、このお金の面の支援はとてありがたいことですが、やはり職場環境も大事なので考えていかなければいけませんし、もうそれを実行に移さなければいけないと私は思います。何らかの行動に出ていったほうがいいと思います。

- ・ IT 関係の導入は5年計画と言われていましたね。でも、5年計画で一度にどっとお金をつぎ込むより、たとえ1台ずつでも少しずつお配りすれば、その1台を2、3人の先生で譲り合って使うということもできると思います。特に女性は家に帰っても家事が大変ですので、残業や家に仕事を持ち帰ることがなくなるよう、予備の予算というのは取れないのでしょうか。5年末というのはしんどいので、少しでも予算を取って、少しでも早く IT 機器で保育士さんを楽にしてあげてほしいです。
(回答) 5年後というわけではなく、順次進めていくという意味ですので、頑張ります。よろしくをお願いします。

(教育長の回答) 小中学校に STEAM ラボを造ったのに、こども園にはなしですかという声もありますので、今そのように進められるようこども未来課長も教育部長も頑張ってくれると期待しています。

教育委員会課長(未来型児童館担当)

加西市未来型児童館整備基本構想策定業務の進捗状況についてご説明します。今回は建設地の比較評価、未来型児童館に導入する機能について説明します。

その前に、今までの経緯を振り返りたいと思います。令和3年度までの検討結果の資料をご覧ください。これは昨年度まで庁内で行ったワーキンググループにて出されたもので、未来型児童館に対する一定の方向性を示したものです。ワーキンググループでは、未来型児童館を既存の施設の総合的な連絡調整や総合支援を担うセンター機能型児童館として想定しています。児童厚生員を配置し、平日だけでなく土日も利用できるようにしてほしいという意見がありました。未来型児童館が担う機能としては、発達支援や療育相談や子育て相談という各種相談機能、不登校適応教室、ひきこもり支援、子ども食堂、外国人支援、農業体験等もできればということでした。建設場所

は健康福祉会館もしくは玉丘史跡公園のどちらかとなりました。

次に、これまでに実施した総合計画や子ども・子育て支援事業計画などの各種計画策定時に行ったアンケート、また現在市にある施設の状況から見た加西市の子育てに関する課題についてご説明します。加西市の子育てに関する課題には、中・高生の放課後や休日の居場所が少ないこと、様々な年齢の人が運動・学習・音楽などに活用できる施設が不足していること、子育ての相談窓口が市内に分散していて、休日には利用ができないこと、さらに、現在進めている STEAM 教育を体験できる学校以外の場所がないことなどが挙げられます。これらの課題と年末に実施したワークショップでの意見を踏まえ、未来型児童館整備に係る基本構想策定に向けて作業を行ってきました。

まず、建設候補地について説明させていただきます。ワーキンググループにおいて出された健康福祉会館と玉丘史跡公園という二つの候補地について、利便性、事業の実現性、利用者目線で見えたメリットという評価項目で比較評価をしました。

利便性は、交通面でも周辺教育機関についても大きな差はありませんが、健康福祉会館周辺には店舗や飲食店が立地していて少し有利と考えます。事業の実現性については、健康福祉会館は市街区域ですが、玉丘史跡公園は市街化調整区域であるため都市計画法上難しいものがあります。また、玉丘史跡公園には古墳があるので、場所によっては埋蔵文化財がある可能性があります。そのありなしによって発掘調査が必要となり、工期が遅れる可能性があることから、事業の実現性においては健康福祉会館のほうが有利と考えます。利用者目線では、玉丘史跡公園は大型遊具があり親子の遊び場として市民に認知されているというメリットがあります。健康福祉会館には、児童療育室や健診室などの子育て支援機能があり市民から認知されているため、その隣接地に建設して子育て機能を集約させるなら、今以上の活用が期待できます。以上のことから健康福祉会館敷地内を建設候補地としました

次に、導入を考えている機能や諸室についてですが、遊び、学び、相談という三つのグループに分けて機能を考えました。

遊びについては運動する場所、屋内の遊び場所、屋外の遊び場所、休憩する場所として考えています。運動する場所には天井の高いアクティブホールを設け、本格的なスポーツは無理かもしれませんが、エアロバイクをこいだり、卓球などのスポーツができるようにします。屋内の遊び場としては同じアクティブホールで、スポーツ利用とは時間を変えたり、間仕切り壁を設けたりして、ドローンを飛ばせるようにしたいと考えています。また、屋内の遊び場としては DX ルームを設け、パソコンを使ってシミュレーションゲームができるように考えています。

屋外の遊び場には建物の周りの芝生広場があり、小さな子どもが寝っ転がったり、分け隔てなく遊べるインクルーシブ遊具を設置して、誰もがそこで遊べるようにします。休憩する場所としてそこにベンチを置き、疲れたときに休めるようにします。また、屋内には小さな椅子を並べた交流カフェをつくり、軽食を販売できるようなコー

ナーもつくりたいと考えています。

続きまして、学びについてですが、学習する場所、活動する場所、体験する場所、交流する場所として考えました。

まず、学習する場所には自習室を設け、仕切りのついた個人ブースを配置して静かに勉強できるようにしたいと考えています。また学習室には移動式のスツールを置くなどして、グループで話し合いながら勉強できるようにします。遊びでもありましたDX ルームでは、コンピューターの学習アプリを入れ替えて小・中・高校生のどの学年でも学べるようにしたいと考えています。あと、図書コーナーとして専門の図書室を置くかもしれませんし、学習室に図書コーナーを設けるようになるかもしれません。

続いて、活動する場として音楽室を設け、そこにはバンドセットを置いたり、音楽や動画の編集ができるようにしたいと考えています。また、ガラス張りのダンススタジオを設け、音響や空調を整え、一人でも室内でダンスが踊れるようにしたいです。あと、調理室では親子クッキングのイベントなどを行いたいと考えています。

体験する場所として実験室を設け、学校でできない様々な科学実験ができるようにしたいと考えています。また、工作室ではいろいろな材料を準備しておけば、自分たちで考えて物作りを体験できるようにしたいと考えています。先ほどの DX ルームでは、プログラミング教室、KOOV やレゴを使ったプログラミングロボットを動かす体験などができればと考えています。

交流する場所としては交流カフェにおいて、グループで相談やおしゃべりが行えればと考えています。あと、アクティブホールでは音楽やダンス、学習の発表に使えるようにしたいと思っています。

続いて、相談についてですが、悩みを相談する場所、進路を相談する場所、困っている人を支援する場所として考えました。悩みを相談する場所は相談室を設け、そこで相談もできますが、そこで受けられない相談についても担当の相談窓口を案内する橋渡し役またはコンシェルジュのようになればと考えています。進路相談については、高校や大学のパンフレットを置き、先輩に相談に乗ってもらえるようなコーナーを設けたいと考えています。困っている人を支援する場所としては、調理室を子ども食堂に活用することもできるのではないかと思います。

こうして遊び、学び、相談の分類で各機能の説明を行いました。アクティブホール、DX ルーム、交流カフェといった各部屋はある時は遊びに、ある時は学びや体験にというように、同じ部屋を多目的に利用できるようにしたいと考えています。

教育委員からの意見と教育委員会課長(未来型児童館担当)の回答

- ・以前より大分具体的になって、ここまで本当にご苦労があったのではないかと思います。ありがとうございます。ただ、今言われたもの全て取り込もうとすると、か

なり大きな施設になると思います。箱物だけ造って利用度がというあたりは議会でもいろいろ問題になっていますので、その辺りも含めて本当に市民がそこを利用して、子どもたちの成長が感じられ、次々リピーターが来るものを想定した上で、予算等もありますので、どこまで精査していけるかということはさらに難しいのではないかと思います。一方、加西には何か中途半端な施設があって、本当に利用しようと思ってもなかなか利用しにくいところもあると思います。

候補地については玉丘公園や福社会館などがありますが、玉丘公園は史跡公園ということで発掘調査などを考えるとかなり時間を要するというものでした。福社会館についてはいろいろな機能があり、多分今の形から言うと裏側になるのかと想像しますが、今の福社会館の外観を見るとおとなしい感じがします。もっと子どもたちが興味を引くような、見た感じもすごい外観の建物がいいなと思ったりします。

それから、福社会館には福祉課や社協さんが入っていて、包括ケアセンターもあり、いろいろな保健的な機能もあるので、そうした施設の関連で利用できる場所は利用し連携もしていけるとと思います。不登校のことも書かれていますから、学校の先生やスクールカウンセラーに相談することもできますが、経済的なことやヤングケアラーの問題など、福祉も一緒に関わって取り組まないといけないような問題もたくさんあると思います。だから、そこで連携できるというのはとても魅力があります。そのためには建物プラス課内の情報の壁を取っ払わないといけません。それも含めて、せつかくですからいい施設を造ってほしいと要望します。

それと、小さな子どもの遊ぶ芝生広場を目の前にといいのですが、逆に、大型遊具のある玉丘公園が近くにあるので、ちょっと散歩して公園内のほうも散策すれば加西の古い歴史を感じることができ、そういう点でもこの場所はいいいところだと思います。ただ、場所的に少し狭いような気がして本当にいいものができるのかとも思います。ため池も含むということで、どれだけそれが利用できるかなというところもあります。しかし、今までに比べるとかなり具体的な案が出てきました。さらにこれを基にいろいろな議論を進めていってほしいと思います。

- ・今は健康福社会館の敷地内を少し広げてという案、もしくは玉丘古墳を少し広げてという2案があります。でも、高校生までの子どもたちの集まりと生涯活動として地域の方々の活動の両方を考えると、この場所だけという限定的な考え方ではなく、例えば健康福社会館と玉丘古墳全体を総合的に見て、福祉的なことはこの施設内で、さらに外に屋外活動のルートをつくるなど、少し幅を持って多くの人ができるような施設にするのも一つの案になると思います。予算のこともありますけれども、せつかく造るのですから、多くの市民の方が利用できるような場所なるよう考えていただけたらと要望します。

(回答) 今、この施設整備の考え方として、未来型児童館単体で完結するとは思って

いませんし、ここに全ての機能を入れることはできないのではないかと考えています。むしろ周りにある公園や歴史資源と連携をして、例えば何か農業活動をしたときには玉丘史跡公園の古代農園ですとか、少し距離は離れていますが公園の屋外遊具のところまで遊びに行くとかといったように、他の施設との連携も考えつつ、そのコアになる建物が福社会館の中に未来型児童館として建っているという考え方かと思えます。

- ・ こうして市内施設全体の連携を考えてくださることは、本当にいろいろなことに活用できていいことだと思います。でも、子どもさんにとって足は自転車ぐらいしかありませんので、例えば車等で移動しなければ次のところに行けないというのではどうかと思います。そういう意味でもルートのつながってすぐに行けるようなことも視野に入れていただければと思います。

(回答) 分かりました。各施設のアクセスまではまだ完全に詰め切れていないところがありました。ご意見ありがとうございます。

- ・ 私も先の二人の教育委員さんの意見と同じ考えです。加西市はこれだけ立派な市だというのに、本当に魅力がもう一つ薄いというか、例えば隣の小野市や多可町には本当にすてきな音楽ホールがあつていつも羨ましいなと思うのですが、加西市はすてきな町ではあるのですが、プロフェッショナルな建物が少なくて中身が薄いという感じがします。そう思いませんか。今せっかく未来型児童館を造ろうとしているので、加西に来ればこんなすてきな建物がある、こんなに子どもたちに寄り添っている児童館があるというようなものは、本当に今しか造れないと思うのです。ぜひそういうものを造っていただきたいと要望します。

福社会館は使い勝手が町に沿っているのでよろしいかと思えますし、玉丘古墳は自然を取り込んでいます。その二つが一体化すればすばらしいものができるのではないかと思います。お金も時間もかかると思いますが、それだけに本当に中途半端ではなく、加西にしかないというすばらしいものを造っていただけたらと思います。これだけいろいろと検討してくださってきたので、時間をかけたとしても、福社会館と玉丘古墳で十分なものができるのではないかと思います。本当にお金はかかると思いますが、よろしく願いいたします。

- ・ 今、教育委員さんが言われた健康福社会館と玉丘古墳の行き来のアクセスについて私は忘れていましたけど、一度、地図上で二施設を足すところなるといいのではないかというのは作れませんか。これをぱっと見ているだけでは周りの様子はよく分かりません。多分これは近辺だと思うので、全体マップのように玉丘古墳と健康福社会館を載せて、こういうアクセスができるというようなものは作れませんか。

(回答) すみません、すぐにはできないですが考えてみます。ただ、今自然や公園として考えているのは、玉丘史跡公園だけでなくほかの丸山総合公園等との連携もあり、現在市内にある全ての施設との連携というのも考えています。つまり玉丘史跡公園と福祉福祉会館だけを繋げるというイメージではないので、どこまで含めて作るのかということがあると思います。

・施設を一体化という考え方もあるんですね。

(教育長の回答) でも、それはネットワークの話ですよ。皆さんが言われているのはそういう意味だと思います。少し違う考え方になるので。

・施設を足すという案はかっこいいと思いますが。これだけのことをやると書くのなら、玉丘史跡公園と健康福祉会館を結んで加西未来児童館何とかマップとかいうのがあったらいいのではないですか。

(回答) 分かりました。二施設を連携させた絵ということですね。

・つまりこれはこの施設、これはこの施設と分けるのではなく、先ほど教育委員が言われたようにいわば学園構想のように、一つの構想でまとめてマップを作ったらどうかと勝手に思ったのですが、それができたら物すごいと思います。1足す1が2以上、もしくはその倍以上にいいものができるのではないかと思います。これは私の意見というだけですが。

(回答) はい。では、作らせていただいて、次回の定例教育委員会でお出しできればと思います。

・建物構想にするか、メニューでいくのかだと思います。例えばキャンプなど自然体験をオークタウンで企画して、こども未来館でメニュー化するとか、逆にこども未来館でメニューを提起して、オークタウンにお願いするということもできます。それは今後も話ができると思いますし、そういうメニューもできるわけです。市内にはいろいろな施設があるので、こども未来館がそれを活用するための拠点になるというのも、一つの考え方だと思います。建物でどうしていくか、どんなメニューをつくるのかということは、もっとこれからいろいろと具体的にになっていくのではないかと期待しています。

・この施設だけでこれ、ここではこれではなしに、幾つかの施設全体としてやるという説明ならよく分かります。未来型児童館構想とかなにかでうまくやれば、ひよつとしたらワーキンググループで出された要望が全部いけるかもしれませんよ。

(教育長の回答) 今皆さんの言われたことを聞きながら思ったんですが、例えば建物

としては福社会館に建てるけれども、玉丘公園はその庭みみたいな、そういう考え方ができればとも思います。

- ・施設同士が近いのでいろいろな工夫ができるかなと思います。
- ・ひょっとしたら玉丘古墳に芝生の公園だけでも造ったら、そこでドローンを飛ばせるかもしれません。そうしたら子どもたちはとても喜んでくれるのではないかと思います。福社会館に建てる建物にはこれを入れて、玉丘公園にはこれを入れてというようにバラエティにあふれてやれば、どういうふうにやろうというワークショップの意見も一度に一つにまとまるのではないのでしょうか。一度、事務局からも一応言っていて、私のほうでも考えてみます。

(回答) 参考にさせていただきたいと思います。

(教育長の回答) 玉丘公園側からも入れて、福社会館からも入れるというように、確かに一つのゾーンみたいな構想ができれば、雄大なものになりますね。

- ・例えば図書コーナーにも少しだけ本を置いて、図書館に行ったらもっといっぱいあるよというふうな宣伝もできます。こども未来館を触りにして、次に発展させるということもできます。
- ・そうすると、不登校の子どもたちにもどーんと居場所ができるかもしれませんね。ここで勉強しないさいではなく、こういうところでも勉強できますよという提案をするほうにも持っていきます。ワークショップを通してこれだけいい資料ができていますので、これらの意見が全部取り入れられるような完璧な構想になるかもしれませんね。

(教育長の回答) 先ほどの子ども・子育て会議でも、未来型児童館の話になると皆さん活発に意見を語られるんです。それだけ夢や希望があるテーマなんだと思います。だから、建物を建てるという現実的な目標というのはもちろんあるのですが、そのソフト、デザインと機能をどう考えていくかということも大変重要なことだと思います。教育委員の皆さんだけでもこれだけいろいろな意見が出てくるので、前向きに捉えてやってもらいたいと思います。

生涯学習課長兼市史文化財係長

まず令和4年度かしの木学園合同特別学習会について報告します。

先ほど教育長の報告にもありましたが、2月5日にかしの木学園合同特別学習会を3年ぶりに開催しました。今年度の全講座カリキュラムを終えられた各館のかしの木学園生の皆さん、286名が参加されました。オープニングではひまわりっ子クラブ 28

名による勇壮な太鼓演奏が行われました。また今回は、5年以上にわたり社会貢献活動に貢献された19の登録グループに対する感謝状の贈呈がされました。その後、桂佐ん吉さんによる「笑い与健康」という落語講演が行われ、日頃の学習とは違い、皆さん、大きな声で笑って、ゆっくり落語を楽しめました。これまでは出前講座等で貢献された登録グループに対し敬意を表する場がございましたが今回、感謝状贈呈を行うことができ、登録グループの方々からは「励みになる」という喜びの声をいただきました。お忙しい中、足を運んでいただいた教育委員さんに、この場を借りお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

続いて、天文教室とロボット・プログラミングのご案内をいたします。

はじめに、市民教養講座の天文教室についてですが、これは7月から3回の連続講座として生涯学習課で企画して行っています。このたび3月に3回目の講座を開きます。1回目は7月にオークタウンで行いました。星座早見盤の作成と使い方を学んだあと、実際にグラウンドに出て、テラ・ドームから持ってきていただいた天体望遠鏡などを使って天体観測を行いました。2回目は11月に西脇のテラ・ドームで、本格的な望遠鏡で、1回目の夏の星空とは違う冬の星空を観察することができました。どちらの会でも、参加した子どもたちはとても活発にテラ・ドームの職員の方に質問をしており、星空について自分が勉強してきた成果を職員に話し続けるお子さんもいました。子どもたちが体験を通して楽しく学習をしている様子を見ることができました。

次回3回目は星空観察ではありませんが、テラ・ドームさんからの提案で子どもたちが楽しめる活動を取り入れようということで、ペットボトルのロケット実験を行います。3月18日開催、定員は15組です。連続講座のため既に11組の方々が申込みされていますが、定員に達していませんので、ご希望の方はまだ参加いただくことができます。

続いて「親子で挑戦！ロボット・プログラミング」ワークショップについてご案内します。STEAM教育推進事業の委託業者であるジオグリフからの提案で、株式会社GRIPさんの協力により、3月28日善防公民館にてプログラミング教室を行います。午前と午後の2回、各回4組という少ない人数になりますが、小学生以上の親子を対象に開催します。募集受付は3月1日から開始し、LINEと広報、ホームページでご案内をします。

最後に、公民館でのSTEAMラボについて報告します。公民館にもSTEAMラボの設備が整備され、来年度に向け、教育総務課が企画した360度カメラの研修会、本日は図書館システムの研修会などが行われ、各館の職員や当課の課長補佐と職員が研修に参加し、確実な操作手順の習得と活発に利用できるよう努めているところです。研修とは別に360度カメラで撮影したデータをVRゴーグルを使った活用ができないか等、課長補佐を中心に試行錯誤しながら進めております。操作研修を待っているところもあるので、一つ一つ実験的にやりながら進めております。

1月27日の北条小学校の中富条里遺跡見学会の際、あいにくの雪だったため、子どもたちは前半、現地で見学をし、後半は北条小学校に戻り、学校のSTEAMラボと現地である産業団地を中継で結んで見学会を行いました。当日急に行くことになりましたので、現地からの音声が入らないなどうまくいかないこともありましたが、映像でつなぐことができ、学校にいながら、リアルタイムの現地の様子を見てもらいました。後日、今後のためにと360度カメラで中富条里遺跡を撮影しましたので、現在そのデータの活用方法を模索しております。昼休みに私も少し体験させてもらいましたが、このデータをVRゴーグルで見ると、中富条里遺跡が出現し、まるで自分がそこに立っているような体験ができました。こういった設備を使って、見学会に行くことができなかった児童生徒も写真でのみ見ていたこれまでの方法と違い、遺跡を立体的に見、感じるができるのではないかなど、これからこういった形で活用できるか、どのように皆さんに提供していけるか、検討しております。

教育委員からの意見と生涯学習課長の回答

- ・私もかしの木学園合同学習会に参加させていただきました。どうもありがとうございました。どんな様子かなと思って行きましたが、最初のひまわりっ子クラブの太鼓演奏は本当に迫力があってよかったです。帰る際にひまわりっ子の子どもさんに感謝を述べたところ、一緒にいた保護者の方もとてもよろこんでいらっしゃいましたので、こういう場が持ててよかったですと思います。落語も面白かったです。また参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。
(回答)ありがとうございました。

総合教育センター所長

まず1点目、令和4年度教職員研修講座のまとめについて報告します。教職員の資質能力の向上を狙いとし、昨年度末実施の教職員アンケートにて希望の多かった内容や講師を十分に考慮した上、31コース46講座を開設しました。実施に際しては、小・中・特別支援学校教職員はもちろん、公立と私立のこども園職員も参加できるように時期や日程等を調整しました。また、感染症対策等にも十分配慮し、オンライン型やハイブリット型研修も積極的に実施しました。一部コロナの影響で中止になったことを考えると、本年度1,332名の参加者があったことは、昨年同様に過去5年間でかなり多い数となりました。また、講座評価については5段階評価で4.67ということで、過去5年間としては昨年に続いて高い結果になりました。

中でも評価が高かった講座は、市内外の教育現場経験者が講師をした講座です。現場で実践を積み重ねてきた現職・退職教育関係者が講師となった講座では、情熱的でリアルな研修となり、ネットや書籍、一般的な研修では得られないより実践的で効果

的な講座となりました。一方、新しい取組として教育関係者以外の講師による講座、ひきこもり経験者の生の声を聞く教育講演会、またチームリーダーとしての自覚やコーチングについての教育経営講座も好評でした。さらに、STEAM教育に関する講座では遠方から実践者を招いて、理論的内容から一歩踏み込んだ具体的な提案授業を行いました。うち一つの講座は一単元全てを提案授業とし、途中経過はオンデマンド研修、まとめの授業は対面研修にしました。また、今年度は一番の本道である教科授業力向上や教科授業改善に向けて、教科担当者会と連携して公開授業や事後研修に取り組みました。この取組に関しては改善点を多く見つけており、次年度に向けて充実させていくことを校長会と確認しております。

学校現場では急激な世代交代により若手教員の割合が増えており、これまで以上に研修が必要な状況になっています。しかし、各校の教育課程は密で、16校に対する研修講座の日程確保は年々難しくなっています。さらに、昨年度も申しましたが、職員数の減少のため、複数の教員が受講すると学校運営に支障が出るため受講できないという声が小規模校から出ています。開講に当たり市内16校の行事日程等を調整しながら、全職員が希望した講座に参加できるよう、学校運営や教職員の負担が大きくなるよう、時期や時間帯の調整をできる限り図ってまいります。また、引き続き対面型、オンライン型、オンデマンド型研修の特性や利点を検証し、効果的な研修形態を探っていきます。来年度も教職員のニーズに応え効果的で魅力ある講座を目指し、十分に検討して準備を進めていきます。

2点目に、令和5年度青少年健全育成カレンダー、クリアファイルの配布について報告します。今年度もいじめ防止啓発を目的として、児童生徒のポスターや標語の優秀作品を掲載した青少年の健全育成カレンダーとクリアファイルを作成しました。カレンダーは、3月上旬頃から市内公民館を初め、加西市施設、関係機関、こども園、各町公会堂等に配布をし、市民総がかりでいじめ防止に取り組むよう啓発に努めています。また、身近で目に触れることの多いクリアファイルは、来週に市内全児童生徒へ配布し、新小学1年生には入学後配布します。

教育委員からの意見と担当課長の回答

- ・研修講座については、緻密な分析と対応で来年に向けて取り組んでいくときちんとお話が所長からありましたので、その言葉どおりに期待をしています。よろしくお願いいたします。
- ・前回のとき中間でもお尋ねさせていただきましたが、公立と私立こども園等からも参加できるよう、研修の時期や日程等を配慮されたと聞きました。私立園にご案内した研修は何番の講座になりますか。オンライン講座もあると思いますが、実際ど

うでしたか。

(総合教育センター所長の回答) 40 と 41 番です。これは教育センターで企画して、実施はこども未来課が担当しました。

(こども未来課長の回答) 内容としては、小学校1年生の先生にお越しいただいて幼小連携の重要性や探究学習を取り入れた保育教育というようなところでした。鳴門教育大学の木下先生など実践されている先生方が経験を交えた講演をされ、私立園からも各園数名ずつ先生方が来られ非常に好評でした。

- ・ 時期や日程を考えられたということですが、私立こども園の保育士の方には7、8月のほうが日程は合いやすいのですか。

(こども未来課長の回答) 春よりは落ち着いている時期で、秋には運動会等もあるので、7、8月の土曜日午後に計画しました。

(総合教育センター所長の回答) もう少し補足させていただきますと、例えば8番の教育経営講座もこども園の管理職の方が受講されています。ほかの講座についても一覧にある講座は全て受講可能であると伝えていきます。

先ほど質問された時期については、こども園では子どもさんがたくさんいるのに対し指導者は少なく、保育士の方は研修のためになかなか抜けられないという状況が現実にあります。そうすると、土曜日や日曜日など勤務日でない日に研修を組むことになるのですが、他市町にお住まいの保育士さんにとって、わざわざ研修のために出てくるというのは負担だという意見も以前にありました。そのためこども園の研修日程調整は本当に難しく、今は頭を悩ませています。その中でも現場の意見を聞きながら可能な日を探りつつ、調整や提案をしている状況です。こども園向けの研修の数は多くないように見えるかもしれませんが、保育士の方は可能な限り積極的に参加されている状況だと思います。

- ・ オンラインの講座の中には録画等をして、その後でも発信できるというふうにはなっていないのですか。

(総合教育センター所長の回答) 以前もお話しましたが、著作権等の観点から、講師の教授などは、なかなか録画を許可していただきません。

- ・ これだけ良い研修をされているので、私立こども園の方にもご参加いただくと、本当に良いスキルアップになると思います。それで、今本当にご苦労はあるかと思いますが、どのような時間帯が一番お手隙なのかを探っていただき、今後ともよろしく願いいたします。

(教育長の回答) 今オンラインでやるのにはいろいろと課題もあるけれども、トライしてできないことはないと思うので、せっかく研修をしていただくのだから、少し

でも前向きに取り組んでほしいと思います。

- ・こども園では研修で ZOOM などは使えるようになっているのですか。

(こども未来課長の回答) ZOOM についてはデジタル戦略課が貸出しパソコンを持っています。このたび配布されたパソコンは全てカメラ付きで、それこそ先週から順次配布されていると思います。デジタル戦略課からそうしたパソコンを借りて持って来て、受けないといけない研修などはそれで行っています。

- ・教育長の意見：それは絶対受けなくてはいけないマストの研修ですよ。教育センターで企画している研修は別に絶対というわけではなく、希望者向けのものですよ。そういった研修でも ZOOM で見られることが望ましいと思います。そういうパソコンの配置はできないのですか。

(こども未来課長の回答) 園のパソコンもネットにつながっているので、研修を聞くことはできます。つまりカメラ付きのパソコンを借りないと、対面の研修はできないという意味です。園のパソコンはノートパソコンなので、そのままでは相手に自分の顔は映らないけれど、視聴はできます。今年度から賀茂幼稚園にも LAN 回線が配置されたので、全園で視聴できるようになりました。

- ・これは私の単純な素人目の意見ですが、それができるならそれこそ STEAM ラボみたいにその時間を使って、たとえ 1 時間なら 1 時間の間にこども園とつないで研修を配信したらいいのではないかと思います。それこそ保育士さんのモチベーションが上がるかもしれません。

(こども未来課長の回答) 私もそうできたらいいと思って進めていたのですが、現場からは昼寝の時間でも添い寝をしたり、寝ない子もいるので、そんなことは現実的でないという意見がありました。

(総合教育センター所長の回答) 教育委員さんのお考えはすごく分かります。こども園を含め小中学校に対してもオンライン研修のことなど、今皆さんから出していた多くのご意見は私たちも一番に考えていることです。ただし、まず一つに研修の効果を上げるには対面型がいいということです。大学教授によるとオンラインの研修をしても、研修の効果は 3 分の 1 と非常に低いという分析が出ているそうです。それで、県の研修所も可能な限り対面を取り入れるということで、効果を上げるために全て対面型研修に変わりました。

それから、オンデマンドで見たいときに研修が見られるとなると、現状からすると勤務が非常にハードな教職員は全て夜や休みの日に見るようになり、結局、働き方改革と正反対の苦しさを生み出してしまいます。現場の意見としては対面にして、時間と場所を確保して行ったほうがすっきりとできるということです。それから、

現場でオンライン研修を受けていると、生徒指導が入ったとき声がかかって途中で切ったりと、結局集中ができないそうです。その点、研修に出てしまえば、現場も割り切った中の者だけでやってくれるそうです。もちろん講座によってはオンライン型が便利でそれが有効な研修というのがありますが、場合によっては時間と場所を確保してやってほしいという現場の意見も確かにあります。

だから、その辺りで何がいいのか我々も本当に苦しんでいます。どちらかに偏らず両方提供しながら探っている状況です。内容によってはオンラインが有効な研修もあるので、それは大いに使っていこうと思っています。教育委員さんに提案していただいたことは、私たちも検討しており、実際そういう形の研修を何回か行っていますし、取り入れながら探っている状況です。ただ、現場の多忙で現実的な状況というのがあります。

- ・それなら、やはり録画して好きな時間に見れるというのがいいかもしれませんね。
(こども未来課長の回答) お気持ちは分かるのですが、子どもたちがいる限り勤務中に好きな時間というのはない状況です。
- ・一応私は技術職で、やはりここは絶対に受けておかないといけない講座というのがあります。といっても毎日見るわけではないので、そこは仕事を持ち帰って1時間なら1時間見ます。やはり生活は自分の仕事にかかっているんで、絶対見るようにします。でも、講座を聞きに行くよりも録画があれば、好きな時間に見られますし、たとえ1時間でも見れば、その分仕事の精度はアップするのではないかと思います。
(教育長の回答) 現実的な課題もある、だけど、やはり現実を語っているだけでは何も進まないから、現実を乗り越えざるを得ないところがあります。だから、両面からやっていくということが大事なのでしょう。今はみんな苦しみながら計画をつくっているのだと思いますけど、ただ私たちも好きな映画だったら見ますよね。だから、楽しく「これはいいな」と思えるような研修にしていけば、「見なさい」とは言えませんが、見る人は見てくれると思います。
(総合教育センター所長の回答) 私が思うのは、役割分担があってもいいのかなということです。教育委員さんが言われたようなオンデマンドの研修というのは、実は独立行政法人教職員支援機構というところからかなり多くの数を出されています。意見で言われたように、そういう研修を見たい人はオンデマンドで幾らでも自分で見られますし、それについては総合教育センターからも紹介をしているので、それはそこにお任せしようかと思っています。一方、どちらかというところの隙間とか、そこにはない研修を我々は組もうとしているので、オンデマンド型研修は数的には減るかと思っています。そちらの教職員支援機構のほうでは見ようと思えばかなり多くの研修が紹介されていて、それらは本当に有効なものですから、今後それを使って

校内研修等もできるのではないかと考えています。

1.1 協議事項

なし

1.2 教育委員の提案

なし

1.3 今後の予定について

- ・令和5年第3回定例教育委員会 3月29日(水) 14:00～4F入札室大
- ・令和5年第4回定例教育委員会 4月24日(月) 14:00～4F入札室大

1.4 その他

- ・一言お礼を言わせてください。今朝、出勤する途中に泉小学校のところで青い大きな気球がぷかぷかと浮いていました。そばを通っただけで私はうれしくて浮き浮きしました。子どもたちはもっと浮き浮きしたのではないかと思います。会社に行ってから、「どこまで飛んでいくのだろう、みんな乗せていくのだろうか」とじっと見ていました。ちなみにいつの間にかいなくなっていました。でも、子どもたちは「わー大きいな。あれに乗ってみたいな。すごいな。こんなふうに行っているのか。」と友達同士で本当に浮き浮きと話し合い、1日中盛り上がったかと思えます。

本当にたくさんの体験を子どもたちに与えていただいております。また、中富の遺跡見学もさせてもらい、本当に子どもたちはたくさんの体験によっていっぱい学ぶことがあったと思います。これからも一つずつたくさんのわくわくを取り入れてください。きっと子どもたちはこうした体験によって、長い人生も力強く生きていけるのではないかと信じております。どうもありがとうございました。(学校教育課長の回答) 気球は文化観光スポーツ課のほうで4年生の授業としていつも特別にメニューを組んでくれています。もちろん全校生に対するサプライズで、前日まで一切子どもたちには教えず、学校に来たら「あ、気球が出ている」と子どもたちは本当にびっくりします。そういうメニューをつくって来て、各学校を順番に回ってくれています。

- ・朝には2機の気球が出ていたそうなのですが、もう1機の気球は何ですか。(教育部長の回答) 今日3機が飛んでいました。また別に、小学校で使っていた市所有の気球というのがあり、今、学校教育課長が説明したようなアクティブバルーンスクールとして、気球の原理を学びながら搭乗体験をするというものです。ロープで固定しているので飛んで行きません。30メートルまで上がったたり下がったりを

繰り返して多くの子どもたちを乗せ搭乗体験をさせました。そのうちの1機は地元鴨谷の一般市民の方が保有される気球で、その気球はプラスアルファで飛んで行きました。

1 5 質問及び討議の内容（非公開）

議案第3号 令和5年度加西市立公立学校の管理職人事内申について

1 6 議決事項（非公開）

議案第3号 令和5年度加西市立公立学校の管理職人事内申について

原案どおり可決

この会議録は、事務局員が作成したものであるが、真正であることを認め、ここに署名する。

令和5年2月22日

出席者

(出席者署名)